

生団連会報

2023年8月 VOL.54

トップニュース

- ・齋藤 健 法務大臣へ
「外国人の受入れ体制の
構築に関する提言」を提出しました

会員紹介 **We Are SEIDANREN!** We Are SEIDANREN

- ・第15回 ベストマザー賞2023 授賞式

活動報告

- ・2023年度 定時総会開催
- ・2023年度 定時総会 記念講演
- ・2023年度 定時総会 記念パーティ
- ・大阪生団連 第2回会合
- ・北海道生団連 第2回会合
- ・福島視察の実施
- ・気候変動 第2回勉強会
- ・ジェンダー主流化委員会 第2回企業分科会 開催
- ・文藝春秋(2023年6月9日発売)に、
小川会長インタビューが掲載されました



生団連の使命

国民の生活・生命を守る

生団連の活動指針

- 一、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連業界の健全な発展への貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けます。
- 一、世界的な視点から日本の現状を顧みて、立ちはだかる諸課題に対し、御上頼りになることなく「自ら解決に取り組む先駆け」となることを目指します。
- 一、生産・製造・流通サービスの業界と消費者団体が一体となって大いに研究・議論を尽くし切磋琢磨して、政府・行政の政策運営に対する発言力、提案力、そして実現力の確保に努めます。

2023年6月～7月の生団連の主な動き

6月

- 1日 2023年度定時総会・記念講演会・記念パーティ
- 6日 大阪生団連 第2回会合
- 12日 ジェンダー主流化委員会 第2回企業分科会
- 13日 研究課題 気候変動 第2回勉強会
- 21日 ジェンダー主流化委員会 第4回勉強会

6月

- 23日 北海道生団連 第2回会合

7月

- 7日 新・災害対策委員会 第3回勉強会
- 11日 ジェンダー主流化委員会 第3回企業分科会
- 24日 外国人の受入れに関する委員会
- ～28日 JP-MIRAI 現場アカデミー
～海外(ベトナム)スタディーツアー

齋藤 健 法務大臣へ 「外国人の受入れ体制の構築に関する提言」を提出しました

2023年6月14日(水)、「外国人の受入れ体制の構築に関する提言」を齋藤 健 法務大臣に提出し、意見交換を行いました。

外国人の受入れに関する委員会にて議論を重ねた結果、外国人の就労における課題を解決するために、5月17日(水)生団連として提言をまとめ発信いたしました。

そして6月14日(水)、齋藤法務大臣を訪問し、委員会座長である浜田晋吾会長代行(㈱ニッスイ 代表取締役 社長執行役員)より、提言内容についての説明を行いました。



▲齋藤 健 法務大臣

▲浜田会長代行

齋藤法務大臣からは、「技能実習制度や外国人の受入れに関する課題認識は生団連と同じである。政府としてこれから具体的な制度設計を進めていくので、今後も積極的に声をあげてほしい」と発言がありました。

本提言は、人口減少・少子高齢化が深刻化する日本が、これから国民の豊かな暮らしを守っていくためには、外国人を生活者として受入れ、共生社会の構築を進めなければならないという考えに基づくものであり、特に、技能実習生および留学生などにおいて、その権利および能力を尊重し活躍を促す受入れ体制の構築を求めるものです。

提言詳細は
こちらからご確認
いただけます。



2023年度 定時総会開催

2023年6月1日(木) 15:00~16:50 ホテルニューオータニ「鳳凰の間」

2023年度定時総会は、会場出席とリモート出席を合わせ、約300名の会員の皆様に出席いただきました。下記事項について諮り、すべての議案が原案の通り可決されました。

決議事項

- 第1号議案 2022年度活動報告について
- 第2号議案 2022年度収支決算について
- 第3号議案 2023年度活動計画について
- 第4号議案 2023年度収支予算について
- 第5号議案 定款の変更について
- 第6号議案 経理規定その他の一部変更について
- 第7号議案 会員の異動及び役員の変更について

報告事項

- ・専務理事の募集について
- ・定例会議等の開催日程について



【2023年度活動計画 要旨】

◆ 最重点課題：有事における国民的危機への対応

- 感染症だけでなくあらゆる有事に対応できる司令塔機能の実現を目指す
- 軍事侵攻などに代表される外交安全保障上の地政学的リスクに関する調査研究を進め、あらゆる有事に対応する司令塔機能の実現を目指す
- 今後高確率で発生するといわれる大規模災害に焦点を当て、調査・研究を進める
- 今秋に新設される「内閣感染症危機管理統括庁」の機能の監視を行う
- 各省庁官僚を対象とした危機管理及びリスクコミュニケーションに関する教育システムの確立や、疫学・公衆衛生学の専門家育成など、政官へのアクションを行う

◆ 重点課題：国家財政の見える化の実現に向けて



堀口座長より

- 提言の発出と国民の意識喚起に注力する
- 「3カ年複数年度予算制度」の導入と「独立財政機関」の設立を目指し、政府中枢へ提言を行う
- 国民に対して「財政の自分事化」を促す大規模なシンポジウムを開催する

◀キリンビール株式会社 堀口代表取締役社長

◆ 重点課題：生活者としての外国人の受入れ体制の構築に向けて



浜田座長より

- 国に対する提言活動と、会員をより巻き込んだ共生社会醸成への活動を進める
- 不就学・日本語教育支援等の実態把握の後、実効性のある対策を検討していく
- 外国人労働者の受入れ環境整備に関する提言の浸透を図っていく
- 外国人材受入れの体制構築に向け、省庁横断型機関設立を検討する
- 国民の意識喚起のために、引き続き基本指針の採択・賛同を広げていく

▲株式会社ニッスイ 浜田代表取締役社長
執行役員 最高経営責任者(CEO)

重点課題：エネルギー・原発問題の国民的議論に向けて



村田座長より

- 2024年に第7次エネ基が策定される予定のため、政府への発信を見据えた情報収集を行う
- 国民へ向けた情報発信や直接交流の場の強化を行う
- 中立的立場で、原発ファクトの収集・整理を行い、必要に応じて「原発ファクト集」を改訂する

◀株式会社高島屋 村田代表取締役社長

重点課題：災害支援スキームの構築

- 生団連内外へ向けた防災意識啓発と大規模災害を見据えた支援体制を構築する
- 防災意識の啓発・生団連の取り組みを広めるため、イベントの開催や外部イベントへの出展を行う
- サプライチェーン全体での支援体制構築のため、協力企業・団体との連携を強化するとともに、メーカー・卸売・小売・物流・支援団体等各業種からメンバーを集めた分科会を発足する

重点課題：ジェンダー主流化

- 企業でのジェンダー主流化の問題への取り組みは最優先事項と考え、企業内での課題について整理していく
- 企業におけるジェンダー平等の推進に向けて、企業参加型分科会を年間通して取り組む
- 企業内におけるジェンダー平等を阻む論点の研究をする
- 3月8日「国際女性デー」の活動を継続して行い、ジェンダー主流化に対する国民への意識喚起を行う

研究課題

- プラスチック問題…………… 勉強会を定期的に開催し、学ぶ機会や外部団体との交流の場を設ける
- 食料安全保障・食品ロス削減…「もったいないゼロプロジェクト」の展開、各自治体との連携強化を行う
地域生団連においても地域課題として今後議論していく
- 安全保障・憲法問題…………… ファクトに基づいた調査・研究を進め、重点課題に関連した憲法についても理解を深める
- 気候変動…………… 気候変動に関するファクト収集を行い、研究・論点整理を行う

地域生団連

- 埼玉生団連
食品ロスの問題について引き続き議論を重ねるべく、秋頃に会合を開催する予定
- 大阪生団連
災害・外国人・財政について引き続き議論を重ねる
大阪は2025年に万博を開催するが、経産省より女性活躍推進館の相談を受けている大阪生団連として地域の消費者団体や女性団体の声を拾い上げて届けていきたい
- 北海道生団連
食料安全保障について引き続き議論を重ねる



▲会場参加の会員様からもご意見・ご質問をいただき、大変活発な会となりました。

2023年度 定時総会 記念講演

2023年6月1日(木)17:00~17:45 ホテルニューオータニ「鳳凰の間」

記念講演 『市長・知事の経験から見た国と地方の在り方』



千葉県知事 熊谷 俊人 様

1978年 2月18日	生まれ	浦安市・神戸市などで少年時代を過ごす 高校2年の時、阪神淡路大震災で被災
2001年 3月		早稲田大学政治経済学部卒業
4月		NTTコミュニケーションズ株式会社入社
2007年 4月		千葉市議会議員選挙に立候補し当選
2009年 6月		千葉市長選挙に立候補し当選 当時全国最年少市長(31歳) 政令指定都市では歴代最年少市長となる
2013年・2017年		歴代最多得票数を更新し3期
2021年 3月		千葉県知事選挙に立候補し、歴代最多得票数 (140万9496票で初当選)



【講演概要】

- これまで市長・県知事として、財政再建や待機児童解消、企業誘致、経済活動に関する規制緩和、行政におけるDX、多様性の尊重、二重行政の解消など、様々な問題に取り組んだ。特に、新型コロナウイルス対応では、新型インフルエンザの教訓を活かすことが出来た。今回の新型コロナウイルス対応についての総括も確り取り組みたい。
- 現場で我々が取り組んだ優良事例は、最終的には国に採用されて全国に横展開される。これが本来の国と地方自治体の健全な関係であり、その実績をどれだけ作れるかが地方自治体のプライドだと思って取り組んでいる。
- 地方自治体の首長は、直接有権者から選ばれる且つ4年間の任期があるので、厳しい改革や議会との真摯な交渉が出来るという特徴がある。一方、国政は選挙が多く、短期的には反発を招くが将来的には重要であるような政策に取り組むハードルが高い。
- 千葉県だけでなく日本全体に貢献したいと考えており、そのためには消費者や企業との意見交換が大事だと考えている。生団連には、国政だけでなく地方政治にも率直な声を届けてほしい。

2023年度 定時総会 記念パーティ

2023年6月1日(木) 18:00~19:30 ホテルニューオータニ「鶴の間」



小川会長挨拶 要旨

- 日本が道徳的にも文化的にも尊敬され、そして生産力においても素晴らしいというようなグローバルな目線で世界の模範となる国を目指していくためには、抜本的な改革が必要である。
- そうした改革は国民が強く思わないとできない。
生団連はその声を結集して、この国を再び輝ける、活力のある国に変えていかなければならない。



記念パーティでは、国会議員・関係官庁の方々をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、温かいご祝辞も頂戴しました。総勢800名に上る方々のご参加により、大盛況のパーティとなりました。

2023年度 定時総会 記念パーティ

【来賓祝辞】



▲岸田 文雄 内閣総理大臣

岸田総理 祝辞概要

5月から日本では、新型コロナの感染症法上の分類が5類に変更となりました。この新型コロナから日常を取り戻すための大きな一歩を踏み出しました。新しい時代に向けて、私たちは心一つに取り組んでいかなければなりません。

その際には、生団連の皆様とも力を合わせて、国民の命と安全と、そして生活を守るという、政治にとって最も大きな責任・役割を果たしていきたいと思えます。



▲茂木 敏充 自由民主党幹事長



▲山口 那津男 公明党代表



▲泉 健太 立憲民主党代表



▲西村 康稔 経済産業大臣



▲馬場 伸幸 日本維新の会代表



▲玉木 雄一郎 国民民主党代表



▲齋藤 健 法務大臣

【乾杯】



◀(左より)

消費科学センター
堺市消費生活協議会
東京都地域婦人団体連盟
埼玉県地域婦人会連合会
消費者市民社会をつくる会

古川 英子 企画運営委員
山口 典子 会長
谷茂岡 正子 会長
柿沼 トミ子 会長
阿南 久 代表理事

大阪生団連 第2回会合

2023年6月6日(火) 14:00~16:00 ハートンホール日本生命御堂筋ビル12F



▲山口 典子 会長
(堺市消費生活協議会 会長)



▲木藤 哲大 副会長
(日本ハム株式会社 取締役会長)

大阪生団連 第2回会合を、6月6日にハートンホール日本生命御堂筋ビルにて開催いたしました。

大阪生団連79企業・団体の内、12会員・12名の方々にご出席いただきました。

冒頭、山口会長より、大阪の商人あるいは大阪の商業というものをどのように発展させていくのか。そのために大阪生団連に何ができるか、また皆さんが何を求められるかということ、今後しっかりと皆様のお力を借りながら、楽しくやっていきたいという旨、ご挨拶をいただきました。

続いて、木藤副会長より、皆さんの事業から見える課題や意見を出し合い、大阪生団連として課題解決に向けて取り組んでいくことが必要である。是非、皆様と一緒に取り組んでいきたいという旨、ご挨拶をいただきました。

事務局より、「外国人の受入れ」「国家財政の見える化」「災害対策」の報告を行った後、参加会員の皆様より活発な議論を頂戴いたしました。

【今後の大阪生団連として】

- ① 「外国人の受入れ」を地域重点課題とし、具体的な活動については引き続き、事務局 及び 会長・副会長を中心に検討を進めること。
- ② 「災害対策」については、今後の会合で30分程度のインプットの時間を盛り込んでいくこと。
- ③ 第3回会合を9月下旬～10月中旬に開催する予定であること。

を決議・確認いたしました。



会場の様子▶

北海道生団連 第2回会合

2023年6月23日(金) 15:00~16:30 TKP札幌カンファレンスセンター ホール6A



▲高田 安春 会長
(公益社団法人札幌消費者協会 会長)



▲似鳥 昭雄 副会長
(株式会社ニトリホールディングス 代表取締役会長)

北海道生団連 第2回会合を、6月23日にTKP札幌カンファレンスセンターにて開催いたしました。

北海道生団連32企業・団体の内、16会員・20名の方々にご出席いただきました。

冒頭、高田会長からは、北海道生団連発足から間もなく1年となり、この間、第1回会合で重点テーマを「食料安全保障・食品ロス削減問題」に設定、先月には勉強会を開催し課題に対する知見を深めてきたので、本日の第2回会合では重点テーマについて北海道生団連として具体的活動のイメージを描く会議にしたいという旨、ご挨拶をいただきました。

続いて、似鳥副会長より、様々な活動を通して、北海道再生に貢献したいと考えている。食品に関しても、北海道産の良さを日本だけでなく世界中へ伝えていきたいという旨、ご挨拶をいただきました。

事務局より、重点テーマである「食料安全保障・食品ロス削減問題」について報告を行った後、参加会員の皆様より活発な議論を頂戴いたしました。

【今後の北海道生団連として】

- ① 第3回会合では、「食料安全保障」と「食品ロス削減問題」の2グループに分かれ、各課題について分科会という形で議論を深めていく。
- ② 食品ロス削減は比較的具体的な議論がなされたが、食料安全保障については課題が広範に渡るため、事務局でも引き続き調査研究を進める。
- ③ 第3回会合を9月下旬~10月中旬に開催する予定であること。

を決議・確認いたしました。



会場の様子▶

福島視察の実施

2023年6月8日～9日の2日間で再生可能エネルギー関連施設の見学と、福島県の被災地視察をエネルギー・原発問題委員会で行ってまいりました。

【視察レポート】

1日目

◆国立研究開発法人 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 (FREA)

2014年4月に設立し、水力とバイオマス発電を除く全ての再生可能エネルギーについて研究している施設です。広大な実証フィールドを持つのが特徴です。被災地における新たな再生可能エネルギー産業の創出を目指し、被災地企業への技術支援も行っています。

日本で地熱エネルギーの利用を広める重要性や、再生可能エネルギーで発電した電力を、蓄電池ではなくグリーン水素として貯留する工夫等お話しいただきました。

また国内では未だ法規制が厳しく、地熱や水素の利用の拡大が難しいという話も伺い、今後再生可能エネルギーの活用を広める上での課題も理解することができました。



▲FREAの所有する中型風力発電と太陽光パネルの実証フィールド

◆東日本大震災・原子力災害 伝承館



▲伝承館見学の様子



▲伝承館展望デッキより 整備が進む被災地のいま

2日目

◆請戸小学校



▲請戸小学校内の津波被害の様子

◆とみおかアーカイブ・ミュージアム



▲震災遺物:津波に流されたパトカー

震災に関連する3施設の見学を通して、震災当時の被害状況、原子力発電所事故による切迫した避難の様子、震災後の生活再建にむけた市民の方々の声を知ることができました。

国民の皆様とその生活を守るために、こうした震災があったことを忘れず、「もし今、災害が起きたら」という視点を持ち、日頃からの備えを怠ってはいけなと感じました。

福島視察の実施

◆東京電力廃炉資料館

福島原子力事故の事実と廃炉事業について広く伝えるため、2018年11月に開館した施設。

解説を含む90分のコースを見学し、映像や模型展示などを用いて原子力発電のしくみや、事故当時発電所で何が起こっていたのか、職員の方の声、今後の廃炉に向けての動きなどを分かりやすく説明していただきました。今夏、放出予定のALPS処理水についても、処理方法や放出に向けた検査などファクトに基づく解説を頂きました。

原子力発電事故を起こしてしまった立場として、説明責任を果たそうとする東京電力の姿勢が見て取れました。



▲左から原子炉圧力容器、原子炉格納容器、原子炉建屋のコンクリート壁の厚さ比較の展示

◆特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま

特定廃棄物がどのように発生するのか、またそれをどのように運び出し、処分するのか。埋立処分の流れを分かりやすく解説した施設です。

細かくした放射性廃棄物を入れる専用のケースや、雨水による放射性物質の流出を防ぐためのシートの展示を見て、放射能汚染を広げない工夫を感じることができました。また埋立地の放射線モニタリングを継続して行うことで、環境への影響を中長期にわたり監視し、万が一漏れてしまった際にも迅速に対応できるよう、体制を整えていることが分かりました。



▲埋立処分についての展示

気候変動 第2回勉強会

2023年6月13日(火)国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 企画調整部門 研究開発コーディネーター 兎玉 真史 氏を講師として招き、「気候変動の日本近海への影響とブルーカーボンへの期待」というテーマで、研究課題・気候変動に関する第2回勉強会を開催しました。

※40名(31社・団体)が参加

私たちの身近なところへの気候変動の影響として、海洋・水産業の観点から見た問題を取り上げるとともに、気候変動への対策としての水産業・ブルーカーボンについて講演頂きました。



【プログラム】

- 1 気候変動をとりまく世界の状況
- 2 我が国の水産業に気候変動がもたらす影響
- 3 海からの取り組み・ブルーカーボンへの期待

【事務局より】

地球史的観点から「気候変動」を取り上げた第1回に続き、今回は私たちの身近なところ・「海・水産」の観点から「気候変動」で起きている具体的問題・取り組みを紹介しました。第3回も現在企画中ですので、ご期待ください。

なお、勉強会の様子は、生団連HPの会員専用ページよりアーカイブを視聴可能です。こちら是非、ご覧ください。

ジェンダー主流化委員会 第2回企業分科会 開催

ジェンダー主流化委員会 より



▲大崎 麻子 様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)



▲藺田 綾子 様(株式会社クレアン 代表取締役)

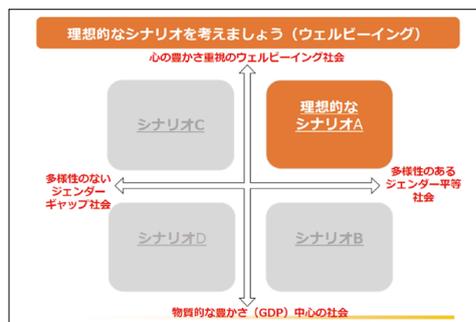
6月12日(月)ジェンダー主流化委員会 第2回企業分科会を開催しました。

企業分科会は、これまでの勉強会とは異なり、企業のジェンダー主流化を生団連から、より具体的に進めていく活動となっております。

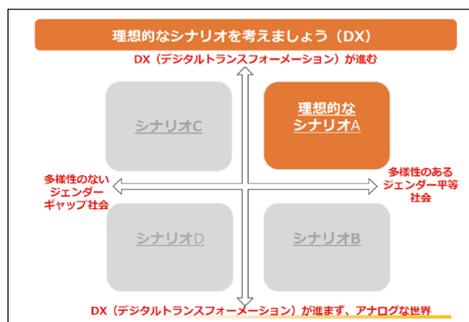
ワークショップを中心に計4回開催し、参加者には自社課題に対し実践的に取り組んでいただけます。

第2回企業分科会は18企業・23名の方に参加いただき、藺田 綾子 様(株式会社クレアン 代表取締役)より「ジェンダー主流化が進んだ時の2035年の社会と企業、進まなかった時の社会と企業の未来シナリオを描く」を講義いただきました。

5グループに分かれた参加企業の皆様と未来シナリオからバックキャストしていくグループワークを行い、非常に活発な意見交換の場とすることができました。



▲グループワークイメージ図



▲会場の様子

文藝春秋(2023年6月9日発売)に、小川会長インタビューが掲載されました

文藝春秋(2023年6月9日発売)にて、生団連 小川会長のインタビューが掲載されました。

文藝春秋の、創刊100周年記念 トップインタビュー企画にて、文藝春秋 編集長の新谷氏と生団連 小川会長が対談した様子になります。

今回は小川会長と新谷編集長の対談企画となっており、6ページの非常に読み応えのある記事です。

ゼンショーホールディングスのトップとしてではなく、生団連会長の立場として、生団連の創設経緯から各課題の問題意識について、幅広くお話されております。



実際の誌面です。終始、和やかな雰囲気でお話は進み、生団連の考える国民的課題について新谷編集長にも非常に共感していただきました▶

国民の立場から議論して声を挙げる団体が必要... 生団連なら知っている... 加えて企業もよくは... 国民生活産業・消費者団体連合会 会長

国民の生活と生命を守るために設立された「国民団体」

小川賢太郎氏 東日本大震災直後、日本に経済団体はあっても、国民の生活・生命を守る団体は存在しないと痛感。企業と消費者団体に結束を呼びかけ、発足したのが「生団連」。小川賢太郎氏が「文藝春秋」編集長・新谷学氏と対談した。

小川 清水先生は、イオンやイトーヨーカ堂が中心になっ... 国民の生活と生命を守るために設立された「国民団体」



Kenji Ogawa 1948年生まれ。1988年東京大学入学。東大勤労を体験... 2012年2月日本チェーンストア協会会長。17年日本フランチャイズチェーン協会会長(ライオン・コーポレーション-教団改名前会長)の後継者。生団連会長に就任。

小川 組織には元々大企業... 国家財政の不透明さが... 生団連の成長を遂げる... 生団連は、自らの存在を... 国民の生活と生命を守るために設立された「国民団体」

小川 組織には元々大企業... 国家財政の不透明さが... 生団連の成長を遂げる... 生団連は、自らの存在を... 国民の生活と生命を守るために設立された「国民団体」

Monabu Shintani 1964年生まれ。早稲田大学卒業後... 2012年『文藝春秋』編集長に就任。21年7月2日就任。

文春オンラインにて、WEB記事でも掲載されましたので、是非皆様ご覧ください。

こちらからご覧いただけます→





第15回 ベストマザー賞2023 授賞式

2023年5月11日(木)サントリーホール ブルーローズにて開催



生団連の特別会員でもある一般社団法人日本マザーズ協会主催の「第15回ベストマザー賞2023」授賞式に、生団連の井上 淳 参与がプレゼンターとして登壇しました。

ベストマザー賞は子育て支援・母親支援を啓発する活動として2007年より開催。ママ・パパたちによる、1年間の投票により得票の多かった著名人を表彰する賞です。

<第15回ベストマザー賞2023 受賞者の皆様>

- 【芸能部門】 仲間 由紀恵さん (女優)
- 【音楽部門】 AIさん (歌手)
- 【文化部門】 ヨンアさん (モデル)
- 【文芸部門】 綿矢りささん (小説家)
- 【社会経済部門】 丸田 佳奈さん (医師・タレント)
- 【スポーツ部門】 登坂 絵莉さん (リオ五輪女子レスリング金メダリスト)





国民生活産業・消費者団体連合会

発行:国民生活産業・消費者団体連合会
発行日:2023年8月1日

〒108-0075 東京都港区港南 2-18-1 JR 品川イーストビル8階
電話 (03)6833-0493 / FAX (03)6833-0494 / E-mail: jimu@seidanren.jp
ホームページ: <https://www.seidanren.jp>